安全科指導案

授業者　池住　祐亮

「地震」
～まさか自分が！？にそなえるために～

１．学年・組　　２年西組　３２名

２．目指す子供の姿

学びの中で見出した気づきを生活経験と関連させながら考え、自分なりに学ぶ価値づけをしながら学習に没頭できる子供

３．本時における「子供とつくる学び」

子供と学びをつくるための本単元における課題は大きく２つあると考える。

１点目は「安全性バイアス」が働き、自分に限って地震の被害に遭うことはないだろうと考えている子供がいることである。２年前に起きた大阪北部地震の際は、まだ小学校入学前であり当時のことをはっきりと覚えていないという児童も多い。「きっと自分だけは大丈夫だろう・・・」と思う児童の考えも否定はせずに、今まで大きな地震を経験した子供たちの手記を読んだり緊急地震速報を流したりすることで地震は「いつ、どこで」起こるか分からないものであることを改めて確認したい。

２点目は、避難訓練の経験から、もし地震が起きても教師の言っていることを聞いていれば大丈夫と考えている子供も少なからずいることである。しかし地震は児童が学校にいる時に起きるとは限らない。もし登校中に起きた時に教師ではなくて、だれを頼ったりどこに避難したりするのか？を考えていきたい。

４．「子供とつくる学び」を実現するための手立て

本時では駅から学校へ登校中に地震が起きた時の最善の方法を、自分なりに選択できるようにしたい。そのために２つの手立てを行う。

①　フィールドワークの学びを基にして

本時では駅から学校までの間で地震が起きたらどうするか？を大きな課題として扱うことにする。その前提として、駅から学校までのフィールドワークを行い「もし地震が起きた時に危ないところはどこか」を子供が発見する時間を確保する。本時はその学びを基盤として学習を進めたい。フィールドワークをすることで、危険な場所だけではなく、公園や公共の施設(市役所など)を発見することが予測される。もし、地震が起きたらそのような場所も避難できる場所として活用するべきことを確認したい。

②　選択する学習を通して

「一人で駅から学校までの登校中に地震が起きました。学校に行く？駅へもどる？それとも？」という選択肢を用意し児童と考えていきたい。学校近く、住宅街、交差点、駅周辺それぞれを考えることで選ぶ選択肢が異なってくるかもしれない。地震時の絶対的正解を求めることは難しいが、最終的には「広い場所に避難すること」「その場で待機しておくこと」をおさえたい。

５．教材について

本単元では自然災害の中で「地震」を扱う。この学習を通して地震時の避難方法を児童がその場に応じて自分なりに選択することができるようにしていく。そのためには、フィールドワークで発見したことを基盤として本時の学びを深めていく必要性がある。駅周辺、交差点、住宅街、学校周辺の４か所を重点的に見ていくことで地震時に危険なところを発見していく。

地震は短時間に起こる大規模な自然現象であり、その被害も甚大になることがある。また、世界の地震の２割が日本周辺で発生していると言われている。災害の中ではとても身近なものである。子供もニュースや教師からの話の中で、地震の話題に触れることはある。しかし、子供にとって地震は「大きな地震は起こらない」「もし起こっても先生の指示を聞いていれば大丈夫」なものになっていると感じる。地震が生じた際の行動の仕方を、自分なりに選択し表現できるようにしていきたい。

６．評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「まず低く」「頭を守り」「動かない」という地震時の基本的な行動を理解し、緊急地震速報が流れた際に行動にうつしている。	地震が起きた際に、様々な条件を考えた上で自分なりに最善の避難方法を考えている。	学校から駅までフィールドワークをすることで問題を身近なものとして捉え生活経験と関連させ、課題解決に取り組もうとしている。

７．単元計画

次	時	内　容
1	1	駅から学校までの道を歩いて危険な所を探す。
	2	緊急地震速報が出たらどうするかを考える。
	3	駅から学校までの間で地震が起きた時の行動について考える。★本時

８．本時の目標

駅から学校までの間で地震が起きたらどうするかを考えることを通して、その場に適した行動を自分なりに選択することができる。【思考・判断・表現】

９．本時の展開

児童の学習活動	指導上の留意点
１．緊急地震速報が流れた！ ・１月の訓練の時のように落ち着いて机の下にふせることができた。 ・びっくりして動くことができなかった。	とつぜん緊急地震速報を流すことで、地震はいつ起きるか分からないものであることや地震時の基本的な行動を児童が確認できるようにする。
２．地震が起きたときの基本的な行動を確認しよう。 ・地震が起きたときには身を守るために大切な３つのポイントがあったな。 ・机がなかったら手やカバンで頭を守ることも大切だったな。	「まず低く」「頭を守り」「動かない」という３つのポイントを確認した上で、もし教室以外のところで起きたら？と問うことで地震発生時にはその場での臨機応変な判断が求められることに児童が気づけるようにしたい。
３．地震が起きた時に駅から学校までで危険なところはどこか共有しよう。 ・住宅街は電信柱があるから倒れてくるかもしれないな。 ・駅の近くはお店が多いから看板が落ちてくるかもしれない。	駅周辺、交差点、住宅街、学校近くの４つのポイントについて話し合うことで、登下校中に地震が起きたら様々な危険性が生じることを確認できるようにする。
４．もし駅から学校までの登校途中で地震が起きたら、学校に行く？駅へもどる？それとも？ ・駅の近くや住宅街の近くには公園があるから地震があったら避難できるかもしれないな。 ・学校の近くで地震が起きたら、学校まで来たほうが安全だと思う。	駅周辺、交差点、住宅街、学校近くの４つの場所で地震にあった場合を考えることで、地震にあう場所が変わることで避難する場所や頼る人も異なってくることに気づけるようにする。
５．今日の学習をふりかえろう。 ・広い場所を見つけたら、そこに待機して大人が来るのを待つことが大切だと思った。 ・地震がいつ起こるか分からないからふだんから安全について話し合うことが大切だと思った。	

評価：地震が起きた時にその場に適した行動を自分なりに選択している。

【思考・判断・表現】